

亜くろいし 市議会だより

第2号

平成25年9月1日発行

発行：黒石市議会 〒036-0396 青森県黒石市大字市ノ町1 1番地1号 TEL 0172-52-2129 FAX 0172-53-7410
ホームページ http://www.city.kuroishi.aomori.jp/City_Assembly/CA_Menu.html

目次

議会の概要	2
議案一覧	3
市政に対する一般質問	4～6
議会報告会	7
議会からのお知らせ	8

東公園の巨大ポプラ樹 (樹齢約150年 高さ約25m 幹回り6.47m 全国第2位)

平成25年第2回定例会

平成 25 年第 2 回定例会は、6 月 11 日から 6 月 21 日までの 11 日間にわたって開かれ、市長提出の 17 報告・12 議案を、いずれも原案どおり承認・報告・可決・同意いたしました。

各議案の議決結果と各会派の賛否一覧は次のページ（3 ページ）をご覧ください。


また、任期満了に伴い各常任委員会委員・議会運営委員会委員の改選が行われた他、弘前地区消防事務組合議会議員の選挙が行われました。各委員会の委員長・副委員長・委員及び広域連合・一部事務組合議会議員は下表のとおりとなっています。

6 月 21 日の本会議において中田博文議長の議長辞職に伴い議長選挙が行われ、村上啓二議員 10 票、山田鉦一議員 5 票、工藤禎子議員 1 票となり、村上啓二議員が当選し、議長に就任いたしました。

この度、黒石市議会第十八代議長に就任いたしました村上啓二であります。

議会改革を進めてこられた中田前議長同様、「ひらかれた議会」、「信頼される議会」を目指し、取り組んでまいりたいと考えております。

大変未熟ではありませんが、議会という船のかじ取りを任せられた以上、精一杯務めさせていただきます。



村上啓二議長

議長就任挨拶

● 常任委員会・議会運営委員会（平成 25 年 9 月 1 日現在）

常 任 委 員 会			議会運営委員会
総 務 教 育	経 済 建 設	民 生 福 祉	
◎ 大久保 朝 泰 ○ 黒 石 ナナ子 村 上 隆 昭 山 田 鉦 一 佐々木 隆 工 藤 俊 広	◎ 今 井 敬 ○ 工 藤 禎 子 中 田 博 文 村 上 啓 二 工 藤 和 子	◎ 大 溝 雅 昭 ○ 工 藤 和 行 福 士 幸 雄 後 藤 秀 憲 北 山 一 衛	◎ 工 藤 俊 広 ○ 大 溝 雅 昭 山 田 鉦 一 後 藤 秀 憲 大久保 朝 泰 工 藤 和 行

◎委員長 ○副委員長

● 広域連合・一部事務組合議会（平成 25 年 9 月 1 日現在）

青森県後期高齢者医療広域連合議会議員	村 上 啓 二	
津軽広域連合議会議員	福 士 幸 雄	村 上 隆 昭
黒石地区清掃施設組合議会議員	工 藤 和 行	大 溝 雅 昭
弘前地区消防事務組合議会議員	山 田 鉦 一	大久保 朝 泰

第 2 回定例会の議決結果と各会派の賛否一覧

(○は賛成、●は反対)

番 号	件 名	会 派 名	自民・公明 ク ラ 10人	黒石市民 ク ラ 5人	日本 共産党 1人	議決結果
報告第 8 号	平成 24 年度黒石市一般会計補正予算(第 14 号)について		○	○	○	承認
報告第 9 号	平成 24 年度黒石市国民健康保険特別会計補正予算(第 3 号)について		○	○	○	承認
報告第 10 号	平成 24 年度黒石市後期高齢者医療特別会計補正予算(第 3 号)について		○	○	○	承認
報告第 11 号	平成 24 年度黒石市観光施設事業特別会計補正予算(第 3 号)について		○	○	○	承認
報告第 12 号	平成 24 年度黒石市簡易水道特別会計補正予算(第 3 号)について		○	○	○	承認
報告第 13 号	平成 24 年度黒石市国民健康保険黒石病院事業会計補正予算(第 4 号)について		○	○	○	承認
報告第 14 号	平成 24 年度黒石市水道事業会計補正予算(第 2 号)について		○	○	○	承認
報告第 15 号	平成 24 年度黒石市下水道事業会計補正予算(第 2 号)について		○	○	○	承認
報告第 16 号	黒石市税条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	承認
報告第 17 号	黒石市承認企業立地計画に従って設置される施設に係る固定資産税の特別措置に関する条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	承認
報告第 18 号	黒石市国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	承認
報告第 19 号	平成 25 年度黒石市一般会計補正予算(第 1 号)について		○	○	○	承認
報告第 20 号	平成 25 年度黒石市姥懐霊園墓地特別会計補正予算(第 1 号)について		○	○	○	承認
報告第 21 号	平成 25 年度黒石市温泉供給事業特別会計補正予算(第 1 号)について		○	○	○	承認
報告第 22 号	権利の放棄について		○	○	○	報告
報告第 23 号	平成 24 年度黒石市一般会計繰越明許費繰越計算書について		○	○	○	報告
報告第 24 号	平成 24 年度黒石市国民健康保険黒石病院事業会計継続費繰越計算書について		○	○	○	報告
議案第 49 号	青森県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体数の減少及び青森県市町村職員退職手当組合規約の変更について		○	○	○	原案可決
議案第 50 号	青森県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体数の減少及び青森県市町村総合事務組合規約の変更について		○	○	○	原案可決
議案第 51 号	黒石市防災会議条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	原案可決
議案第 52 号	黒石市災害対策本部条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	原案可決
議案第 53 号	議会等に出頭する証人及び公聴会に参加した者の要した実費の弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について		○	○	○	原案可決
議案第 54 号	黒石市新型インフルエンザ等対策本部条例制定について		○	○	○	原案可決
議案第 55 号	津軽広域連合規約の一部変更について		○	○	○	原案可決
議案第 56 号	監査委員の選任について		○	○	○	同意
議案第 57 号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて		○	○	○	同意
議案第 58 号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて		○	○	○	同意
議案第 59 号	平成 25 年度黒石市一般会計補正予算(第 2 号)		○	○	○	原案可決
議案第 60 号	平成 25 年度黒石市姥懐霊園墓地特別会計補正予算(第 2 号)		○	○	○	原案可決

平成 25 年度第 2 回定例会一般質問

市政を問う

一般質問は 6 月 18 日、19 日の 2 日間行われ、8 人の議員が市の諸問題についての質問をしました。



自民・公明クラブ
くろいし ななこ
黒石 ナナ子 議員

問 巨木の存在は、教育的、観光的、歴史的、地域的に大きな存在であると考ええる。

そこで、市内に存在する巨木の数と種類はどれくらいあるか。

答 環境省では、「地上 1・3m の位置で計測した幹回りが 3m 以上」の木を巨木と定義しており、ポプラ、モミ等 13 本となっております。

問 巨木に対する歴史的な意義、由来はどの様になっているか。

答 「妙経寺のカヤの木」は、樹齢約 700 年・高さ 15・5m・幹回り 6・5m あり、県の天然記念物に指定されております。

カヤは元来、宮城県を自然分布地域の北限としており、それ以北では育たないとされていますが、妙経寺に伝わるところによれば、この地方では古くから天台密教の修験道が盛んに行われていたとされ、各地を巡回し

た修験者たちが、カヤの苗木をこの地へ移植したのではないかと伝えられています。

問 巨木に対するネーミング、説明版の設置や観光コース作りは。

答 既にネーミングや説明版等のついている巨木もありますが、その他については、選定基準の設定や、所有者等の関係から調査研究が必要と考えております。コースづくりに関しては、巨木だけに特化したコースに限らず、観光資源とつなぎ合わせた魅力あるコースづくりが今後の課題と考えています。



妙経寺のカヤの木



自民・公明クラブ
くどう としひろ
工藤 俊広 議員

問 風疹流行に対する当市の対策をどのように考えているのか。公費助成で予防接種の推進をすべきではないか。対象者はどの様になるのか。

答 8 月 1 日から無料でワクチン接種を行います。ワクチンの不足も考えられることから、妊娠を希望する女性、配偶者を優先的に行います。

問 乳幼児医療費助成制度を現在の申請制度から病院での支払いの必要の無い現物支給制度に変更する考えはないか。併せて一人親医療費助成制度についてはどうか。

答 現物支給は、頻回受診による医療費の増加が見込まれる為、今年度の取り組みはできないが、今後前向きに検討し、実施の方向で考えていきます。

一人親の医療費助成は、こどもを対象に来年度の予算要求の際には医療費助成制度の現物支給を求めたいと考えております。



問 児童の部活動についての現状と教育委員会の役割をどのように考えているか。

答 勝利至上主義の傾向が強くなってきているとの認識は持っています。教育委員会として年度内にスポーツ活動の指針を策定してまいります。



自民・公明クラブ
くどう かずゆき
工藤 和行 議員

問 平成24年度一般会計は、当初予算で3億3千万円の財政調整基金(以下財調)の取崩しの予算であった。概算でよいので、決算見込みと財調の推移を示し、一般会計の健全性についての市長の考えを伺いたい。

答 決算見込みで、一般会計の実質収支額は、約3億6千万円の黒字になる見込みです。財調残高は、23年度末で9億円、24年度中に2億5千万円取り崩し、24年度末で6億5千万円の残高です。年度途中で豪雪対策等により、残高の底が見えてくる非常に厳しい時期がありました。決算を迎えて一息ついた感じです。

しかし、決して安心できる額とは考えておらず、今後も気を引き締め、財政基盤の強化、財源の掘り起こし



問 3億6千万円の黒字は、立派な数字である。しかし、単年度の損益として考えた場合、財調の取崩し額2億5千万円を差し引き1億1千万円の黒字と捉えてよいのか。

答 単年度の収支として考えると、前年度の黒字額を差し引き逆に9千万円の赤字です。



自民・公明クラブ
おおみぞ まさあき
大溝 雅昭 議員

問 黒石駅からこみせ通りへの誘導路が解りづらい。こみせ通りの内側、そこに暮らす人の歴史や想いを観光に活かすべき。金平公園の活用についての考えは。

答 案内板は道路構造令の規定があるため、高い所にあり統一されておりません。初めて黒石に来た人にも解りやすいように工夫を凝らした環境づくりを検討したいと考えています。また、歴史などを活かした街歩きコースを関係団体と協議して検討したいと考えています。



問 金平公園は平成18年に国の名勝に指定され、現在保存修理工事が行われており、平成27年度から一般公開の予定です。周辺に在る大石武学流の庭園についても調査しています。

問 危険な建物の把握と対策については。危険な建物になる前にリフォーム補助などは使えないか。

答 豪雪等による倒壊の恐れのある建物、雪の落下の危険性のある建物は市民からの通報により46件を確認しています。道路通行者へ危険が及ぶと判断した場合、看板等を設置しました。管理条例設置については検討・調査研究しています。リフォーム補助金は、そこに住んでいる事が条件であり、空家はリフォーム補助の対象にはなりません。



自民・公明クラブ
いまい たかし
今井 敬 議員

問 浅瀬石城跡の史跡公園化を検討し、先人が残した財産を次世代に残す必要性があると思うが市長の思いは。

答 現在は個人所有の民有地になっております。これまで現地の立ち入り調査や文献資料の収集などを行っております。浅瀬石城は、本丸、侍屋敷、町屋敷、二の丸、代官館、御堂館から成っており、歴史的にみて貴重な城址であり、今後史跡公園化が可能かどうかも含め、引き続き調査を進めます。

問 一人暮らしの高齢者の安否確認、孤立と孤独死防止のため、全国初の「高齢者見守り宅配便事業」が4月から始まったが事業内容と効果の見通しは。

答 増え続ける65歳以上一人暮らし全員、約860名の方々には1カ月に一度「健康」「安全」「悪徳商法」「熱中症」「インフルエンザ予防」等の市の刊行物を宅配し、直接手渡しで安否確認の報告を受け、対応を強化、各「民生委員」の「フォロー活動」と併せてよりきめ細やかな効果が期待でき、支援体制確立に向けて画期的事業だと自負しています。

問 廃棄物の減量、資源の再利用を目的とした環境省の「小型家電リサイクル制度」が4月から始まったが、回収実績と今後の取り組みは。

答 3月1日から25日までの実証事業の結果、149個、約63kgを収集しました。これまでも市の広報やチラシ等でPRしてきましたが、さらに制度の普及を図ります。



自民・公明クラブ
北山 一衛 議員
きたやま かずえ

問 再生可能エネルギー等導入支援基金事業の取り組みは。

答 当初事業計画は、市内5施設に太陽光発電と蓄電池導入の計画書を県に提出しました。配分目安額は2億円となっております。現在、対象施設の再整理・検証をしています。平成26年度の事業実施ができるものと考えています。

問 ふるさと納税の現状と今後の対策について。

答 過去5年間で68件約647万円であり、市を思うご厚情に感謝申し上げます。市への寄附金のお礼としての特産品を贈呈するなど市の活性化に活用することについては今後の検討課題とします。

問 仮称「西十和田トンネル」建設促進に向けての活動状況は。

答 市町村会・期成同盟会等で県に対し要望活動を行っています。県は、多くの課題への対応について検討していきたいとしています。この事業は、県全体の課題であり、東北等の関係機関に早期着工を呼びかけていきたいと考えています。



日本共産党
工藤 禎子 議員
くどう ていこ

問 子育て・保育の取り組みは。

答 子ども・子育て支援新制度に基づく「子ども・子育て会議」については10月中旬に組織を立ち上げる予定です。今後の黒石市立幼稚園のあり方として、新制度による幼保連携については、保育担当機関とも連携を図りながら対応してまいります。



問 男女共同参画の取り組みは。

答 各種審議会等の委員の女性登用率は26・8%と県内市町村の中でトップクラスです。男女共同参画条例や参画センター等の整備は他市町村の状況も収集して必要性を検討したいと考えています。

問 雪害対策園地再生の取り組みは。

答 効率的な農道除雪を行うため、今年度は早い時期に地元の団体と協議検討していきます。りんご共済総合一般方式の保険料は高いため、生産者が加入しやすい充実した保障内容となるよう、国に強く働き掛けていきます。

問 3ワクチンと風疹予防対策は。

答 「ヒブワクチン」、「肺炎球菌ワクチン」、「子宮頸がんワクチン」は国庫補助事業から一般財源に移行したが、事業の後退はありません。風疹ワクチンの接種の際は、抗体検査を実施しないで希望者は全員やります。実施する8月頃は、ワクチンが不足することも考えられるため、各医療機関に適正の確保をお願いします。



黒石市民クラブ
後藤 秀憲 議員
ごとう ひでのり

問 中町こみせ通りにある「旧松の湯」はどのような目的を持った施設となるのか。

答 観光交流拠点として、休憩所や案内所、テナントなどを備えるほか、イベント会場として利用できる市民の交流の場として利用します。また、地域の防災拠点としての役割を持ち、敷地内に防火水槽とポンプ設備を備え、火災から守り、災害時には避難所としての利用も想定しています。



旧松の湯

問 流・融雪溝の整備状況と、今後の整備計画は。

答 現在の整備状況は、流雪溝が11・9km、融雪溝が17・2kmの計29・1kmです。今後は未整備の5路線、延長3kmについて順次整備を進め、今年度は浦町2丁目から浜町会館、中郷小学校前を通る路線の延長0・7kmについて調査設計を実施する予定です。

問 平成24年度青年就農給付金事業の実績と平成25年度計画は。

答 平成24年度は25人。内訳は個人申請21人に対して、150万円が19人、75万円が2人、夫婦申請2組に225万円、合計3千450万円の給付となりました。平成25年度は、平成24年度から継続する個人20人と夫婦2組、新規給付希望者2人を計画しています。

第3回「議会報告会」開かれる

黒石市議会による第3回「議会報告会」が7月26日スポカルイン黒石大会議室で午後7時より34名の市民の参加で開催されました。司会の工藤俊広議会改革推進委員長は「議会報告のあと、今回はテーマをしばり文化会館問題で市民から意見を聞きたい」と主旨を説明しました。

挨拶に立った村上啓二議長は「市民から『議会が何をやっているのか。顔が見えませんか』というような主旨の意見がありました。私どもとしては、議会だよりの発行、来年の3月制定に向けて議会基本条例を仕上げていくなど、市民に発信する議会を目指して議員全員で汗を流していきたい。」と述べました。



次に6月議会(6月11日、22日)報告は北山一衛副議長が行い、弘前地区消防事務組合議会議員に山田鉦一議員、大久保朝泰議員を選任し、各常任委員会・議会運営委員会の体制を報告しました。一般質問には8名登壇し6月22日最終日には報告及び議案を全会一致で可決したことを報告しました。

市民文化会館について考える

今回のテーマである「文化会館について」は、総務教育常任委員長の工藤俊広議員が文化会館一部再開先延ばしの経過報告をしました。その内容は、平成20年4月の休館後、平成24年2月の新年度予算記者会見の席上、市長が文化会館の一部再開を明言したのを受けて3月議会でも、大溝・北山両議員が一部再開についての一般質問を行い、質問に対する答弁内容は、「平成26年度に、多目的ホール、旧図書室を含む公民館部分の一部を再開する。」という趣旨のものでした。

また、平成25年3月議会の中で工藤和行議員が文化会館の一部再開の先送りについて一般質問し、「福祉複合施設を優先した背景は、施設の老朽化が著しく、利用者特に子供たちに対する危険を排除し、安全確保を図ることが急務であったこと。さらには、生活保護費等の扶助費の急増や、交付税の減等による財政状況が悪化したことにより決断した。しかし、市民文化会館の一部再開はあきらめたわけではなく財政状況を整えながら一日も早い再開をしたい」という回答でした。

当議会はこれらの状況を踏まえ、平成25年度予算案を承認し現在に至っていると、説明をしました。

これに対して市民からは

●文化会館はあわてて再開する必要はない。文化会館もやり福祉施設の整備もやりという経費倒れにもなるし、一部再開で全体ではないのでどっちも中途半端になる。スポカルを上手に使ってはどうか。

●文化会館は無理してやらずに、再開する時は文化会館全部にしてほしい。独立した図書館はほしかったが、経済上先は見えないので文化会館の中に作る図書館はいいものにしてほしい。「難産の子は丈夫に育つ」ということに期待する。

●大ホールはメドがつかないが、多目的ホールだけでも早く再開してほしい。

また市政への意見とこと

- 一般質問者の内容が具体的にわかるように通告用紙に書いてほしい。一問一答や総括質問もできるようにしたらどうか。委員会の傍聴も認めてほしい。
- 国民健康保険税や介護保険料が高い。なんとかできないか。
- 市からの税金納付書をもう少し早く出してほしい。

弘前地区消防事務組合議会 副議長に山田鉦一議員

消防事務組合の広域化についての説明は消防議員である山田鉦一議員が行いました。

黒石地区消防事務組合(黒石市・田舎館村)が解散し、弘前地区消防事務組合は構成8市町村(弘前市・黒石市・平川市・藤崎町・大鰐町・板柳町・田舎館村・西目屋村)となり、対象人口は30万6836人(平成23年1月1日現在)で7月1日からスタートしました。

7月24日に行われた消防事務組合臨時議会で、議長に弘前市の三上秋雄議員、副議長には山田鉦一議員が選任されました。



常任委員会活動報告

7月3日(水)・10日(水)の両日、経済建設常任委員会(今井敬委員長)が中心となり、市内10地区協議会から出されていた平成24年度「地区要望・提言」の134件の中から22カ所を選定し、巡回する形で現地を視察しました。視察には経済建設常任委員5名のほか7名の議員も加わり、市役所の担当課から状況説明を受けるとともに、居合わせた地元住民からも状況を聞き取りました。

7月17日(水)に経済建設常任委員会を開き、視察の総括として22カ所の中から危険度・緊急性の高いと思われる5カ所を選び、担当課からさらに意見を聞き、委員会として、市に対し今後の対応を求めていくことを確認しました。



傍聴者の声

黒石市連合婦人会会長の須藤孝子さんに、大溝委員長がインタビューしました。



Q 傍聴へはよく来ますか?
A 連合婦人会の学習として、毎回定例会の期間中1回は来ています。

Q 議員の質問はどうですか?
A 何度か来ていると雰囲気にも慣れ解りやすいです。

Q 今日私が考えていることが質問されていると思いました。

Q 理事者の答弁はどうですか?
A 専門用語が多いと解りづらい時があります。

Q 傍聴しやすいですか?
A 今日が議場が暑いので大変です。

Q どうすれば傍聴者が増えると思いますか?
A 自分たちは学習の一環として来ています。

Q 議員の支持者が質問をもっと聴きに来れば良いと思います。

Q 仕事や時間の関係で若い人が少ないが、取り込む努力が必要だと思います。

Q 議会についての要望などは? 若い人の声を聞く努力をしてもいいと思います。

Q 議員と語る会をぜひ行いたい。一般質問者が増えていることは評価しています。

議会だよりは大変参考になり、発行を喜んでおります。

しかし、編集後記に「市民の声を聞きながら…」のくだりがありますが、どこかに市民の声の届け先があればよいと思いました。

次回にはこんなふうな議会に取り上げたとか、声↓議会↓回答というように、声に対し、しっかりと取り組んだ証をたよりとして届けてほしいと思います。

(50歳代 女性)

読者からの意見

「議会だより」創刊号を拝見して参考になったことは、まず、議員さんの顔触れや所属党派が分かってよかったです。

また、議会だけでなく、いろいろな委員会でも活躍していることが分かりました。

最後に、「議会豆知識」が参考になりました。

今回の「議会だより」に希望することは、今後議会で議論された事案がどのように実現したかどうか。また、常任委員会の仕事の内容も教えてほしいと思います。

最後に、議員さんの信条も順番で紹介してほしいです。

(60歳代、女性)

編集後記

7月26日に議会報告会を開催しました。多くのご参加ありがとうございました。議会報告会と議会だよりをリンクさせて、情報を発信してゆければ良いと考えております。

どのような議会だよりにするか、編集委員会でも毎回いろいろな意見があります。行政と議会との役割の違いをいせるよう、多くの市民の皆様にご覧いただけるよう取り組んでおります。

傍聴者の議場が暑いという意見はその通りだと思いました。あの日(一般質問の二日目)議場の温度計は29度を指していました。しかし、市役所内にエアコンが無いので、議場だけに取り付けるのは、現状では難しいのでは?

議会だより編集委員会

- 委員長 大溝 雅昭
- 副委員長 佐々木 隆
- 委員 工藤 禎子
- 委員 工藤 和子
- 委員 今井 敬
- 委員 黒石 ナナ子

お問い合わせ先

黒石市議会事務局

黒石市大字市ノ町11番地1号

電話 0172-52-2129

FAX 0172-53-7410

〒036-0396